

## 輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組		
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒	教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用	

### No.17 小樽イングリッシュキャンプ (OEC)

実施時期：平成26年～現在  
任用団体名：北海道小樽市

#### 取組のポイント

- JET-ALTとの英会話やアクティビティを通して、「生きた英語」を学ぶ機会を提供するとともに、「聞くこと」「話すこと」等を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の向上を図る。

#### 任用団体の基本情報

人口：107,908人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 5人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校17校、中学校12校

#### 取組の背景・課題

本市に配置されたJET-ALTが中心となり、近隣市町村のALTにも協力いただき、「生きた英語」に触れることを目的に、平成26年から1泊2日で「小樽イングリッシュキャンプ」を実施してきた。市内の小中学校教員も参加し、総勢70人近くの参加者によるプログラムである。

観光都市である本市には、多くの外国人観光客も訪れるが、児童生徒は普段から英語を使って会話をする機会は多くはない。そこで、市内のALTではなく、外国からの観光客を相手に自分たちが考えた小樽のよさを英語でPRする活動を通して、英語力の向上だけでなく、ふるさと小樽を見つめる機会となることを期待して、実施してきた。

#### 取組の内容

##### (1) コロナ前までの取組

観光都市である本市の特色を生かして、小樽の良さについて英語で話し合ったり、多くの観光客に英語で小樽の良さを伝えたりする活動を設定してきた。

コロナ前は1泊2日の日程で実施していた。チラシを通じて募集した、小学生5年生から中学生3年生まで混合のグループを編成し、ALTとアクティビティをしたり、ゲームをしたりしてきた。初日はアイスブレイクやゲームなどを通して、絆を深めるとともに、外国からの観光客に小樽の良さを伝える内容を考え、実際にスピーチの練習した。2日目の午前中には、観光地である小樽運河周辺にて外国人観光客に小樽の良さをPRする活動を実施した。コロナ前は、多くの外国人観光客を相手に小樽をPRする機会となっていた。



グループ活動の様子

## 取組の内容（続き）

### （2）コロナ禍における取組（令和4年8月4日・5日開催）

令和4年度は実施方法を工夫して3年ぶりに開催することができた。宿泊はせず、半日日程にて、人数も制限した形式で実施した。コロナ前までは総勢70人近くが参加していたが、人数が減った分、ALTとの会話量は増え、「生きた英語」にたくさん触れることができた。また、小学生と中学生の日程を分けて開催したことにより、ねらいが明確になり、児童生徒一人一人に合ったレベルで英語を話すことができた。

今年度は、実際に街頭に出てPR活動を行うことができなかったため、小樽の良さについて英作文を書き、ALTに添削してもらい、発表するという個人の活動が中心であったが、Chromebookを活用し、ALTから添削してもらう時間を十分確保できたことなどから、参加者は質・量とも充実した内容の英文を仕上げ、創意工夫のある発表をすることができた。

また、ALTとの1対1で対話する場面を確保したことは、参加者にとって有意義であった。



閉会式の様子

参加した児童生徒からは、「なかなかALTと会うことができないので、たくさん英会話ができてよかったです。（小学生）」「ふだん外国語の授業とかでしか英語で話したりしていなかったけど、英語で先生と会話することができて楽しかったです。（小学生）」「ALTの先生方から英語の正しい発音やジェスチャーの自然なつけ方などを教わられたので、とてもよい経験になりました。（中学生）」「3時間程度だったけど、時間がいい感じに使えて充実していたので、コロナがなければもっと楽しめたと思います。（中学生）」などという前向きな感想が集まった。

## 取組の成果・今後の展望

参加した児童生徒だけでなく、ALTたちは、準備段階からアイデアを共有し、役割分担を明確にしながら準備することができた。本プログラムが終わってから、彼らが充実した表情であったことも成果である。ALT5人に対して、小学生の部、中学校の部それぞれ20人程度の児童生徒であったため、アクティビティやゲーム、英会話に集中することができていた。

今後は、外国からの観光客を相手に自分たちが考えた小樽のよさを英語でPRする活動を通して、英語力の向上だけでなく、ふるさと小樽を見つめる機会となることを目的に、さらに多くの児童生徒に参加してもらえるイングリッシュイベントとなるよう実施方法等を検討していく。

また、オンラインやオンデマンド形式など端末を活用した取組は、本市においてどの学校でも普及していることから、今後効果的な活用について検討していきたい。

### 問合せ先

担当部署名：小樽市教育委員会学校教育支援室

TEL：0134-32-4111（内線7529）

MAIL：sido-situ@city.otaru.lg.jp

URL：[https://www.city.otaru.lg.jp/categories/bunya/kosodate/gakkokyoiku/kyoiku\\_iinkai/](https://www.city.otaru.lg.jp/categories/bunya/kosodate/gakkokyoiku/kyoiku_iinkai/)

